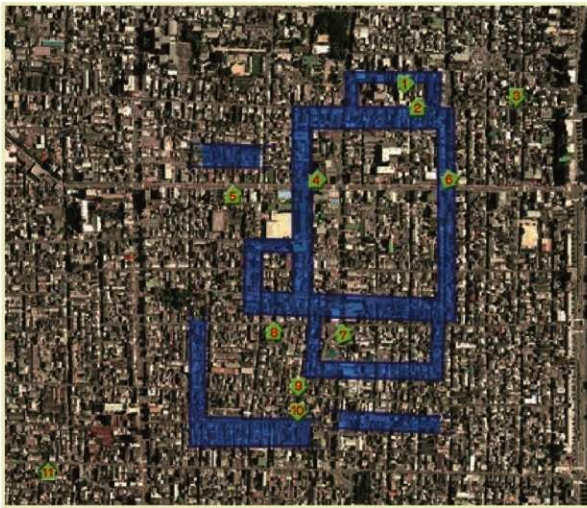
遺跡を訪ねて 9

聚楽第を歩く

http://www.kyoto-arc.or.jp
（財）京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館



聚楽第は、民家の密集する地域にあることから、広い面積での発掘調査はなく、小規模な試掘調査や工事に際しての立ち会い調査を積み重ねて、濠の堆積土や肩部を確認しています。また、浅いところで地山の無遺物層や、聚楽第より古い遺構を確認することも、濠の位置や範囲を解明する上で重要なデーターになります。近年の調査成果を加え、東西480m・南北730mあまりの城郭を推定できるようになりました。

（リーフレット編集委員会）

↑ 一条通智恵光院東入る　鏡石町

鏡石町の北端にある石垣です。高さは約2.5mで、東西幅は150mあります。当時のものではありませんが、聚楽第濠跡の段差を残すものと考えられています。リーフレット京都No.213の写真1は、この石垣の南13mの地点で見つかりました／1 。石畳の路地の奥に祠が祭られていて、その後ろに立てられている板塀の裏が石垣になっています／2 。

← 一条通猪熊西入る
如水町

「黒田如水邸趾」の
石碑
昭和４年３月・京都
府教育委員会建立

中立売通裏門
多門町 →
「此付近　聚楽第址」
の石碑
大正４年２月・京都
府教育委員会建立

↑ 中立売通浄福寺西入る　加賀屋町

平成12・13年に千本中立売郵便局の北西地点で、東西方向の濠の南肩部を確認しています。

↑ 中立売通大宮西下る　和泉町他

平成３年の調査(京都府)で本丸東堀の西肩部を確認し、ボーリング調査によって、濠は水濠で底の深さが地表下8. 4mに達することが明らかになりました。

↑ 下長者町通智恵光院　山本町

交差点北西角で、平成13年に、本丸南濠の南肩を確認しています。下長者町通の北７ｍの位置で、濠内の堆積土は、地表下３ｍを越えています。

↑ 下長者町通浄福寺西入る　坤高町

聚楽第の濠を初めて発見した、昭和39年の調査地です。西之丸の南濠で、下長者町通の北13. 5mの地点に南肩が位置し、北肩までの幅は43. 5mあります。

↑ 下立売通智恵光院西入る　分銅町

裏門通は、出水通から松林寺北門にかけて２ｍほど落込みがあり／9 、境内にはさらに1. 5mほどの落差があります／10 。江戸時代から「此堀跡今ナオ存」とされ、外郭南濠に推定されています。

下立売通六軒西入る　長門町 →
「木村長門守村重公旧館地」の石碑
明治45年５月・市民有志建立